

# 浅間山北麓 ジオパーク 行動計画

▶ **Action plan**

2022-2025



2021年 9月

浅間山ジオパーク推進協議会

## 目次

---

計画の位置づけと展望	3
地質遺産の保全	4
教育普及	7
防災・減災啓発	9
自然享受とツーリズム	11
イメージと情報発信	13
コミュニティとネットワーク	15
くらしと産業	16
管理運営	17
事務局体制	19
予算計画	19

## 計画の位置づけと展望

本計画は、「浅間山北麓ジオパーク基本計画 2021-2025」に示すビジョンにもとづき、浅間山北麓ジオパークの質の維持・向上を図るために、中期的に取り組むべき具体的な内容と道筋を示すものです。

本計画の期間は 2022 年から 2025 年までの 4 年間とし、2020 年の再認定審査における指摘事項に対応しつつ、以下に掲げる事項を展望して計画に取り組みます。

本計画は、地域の実情や、ジオパークを取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、ジオパークの適正な管理運営のために必要がある場合は、柔軟に見直しを行うこととします。

### 大きな社会変容を踏まえた新たな日常への適応

新型コロナウイルス(COVID-19)およびその変異種の地球規模の感染拡大は、社会の価値観や行動様式を大きく変え、その影響は当ジオパークの活動や利用にも及んでいます。こうした大きな社会変容によって、これまでのツーリズム戦略の見直しが迫られており、新たなコミュニケーション手段を活用して社会変容への適応戦略を示していく必要があります。

### 国際社会共通の理念に立ち、ビジビリティ（可視性）を保ち、アカウンタビリティ（説明責任）を果たす

2022 年に当地で開催が予定されている JGN 関東ブロック大会や地震火山地質こどもサマースクールを、ジオパークの活動を外から見えるものにするための重要な機会と位置づけ、活動のビジビリティ(可視性)を保ち、社会に対するアカウンタビリティ(説明責任)を果たします。

### 地域の遺産を大切にしながら、持続可能な地域社会の実現に向けて行動する

- **人・コミュニティ**の持続可能性の視点：  
関係人口・人間関係の構築、地域を形成している文化の継承・再生産が可能な社会
- **自然環境・地域基盤**の持続可能性の視点：  
自然・文化遺産の保全、無形遺産の継承、インフラ(分散、自立)の整備と維持、災害に強い地域社会
- **経済活動**の持続可能性の視点：  
都市と農山漁村の交流、高付加価値の産業育成、地産地消、再生可能エネルギーの利用

### 実際の活動範囲に合わせてエリアを拡大

活動の進展に伴い、エリア外にガイド活動が波及していることから、嬭恋村吾妻川左岸地域へのエリア拡大を目指します。



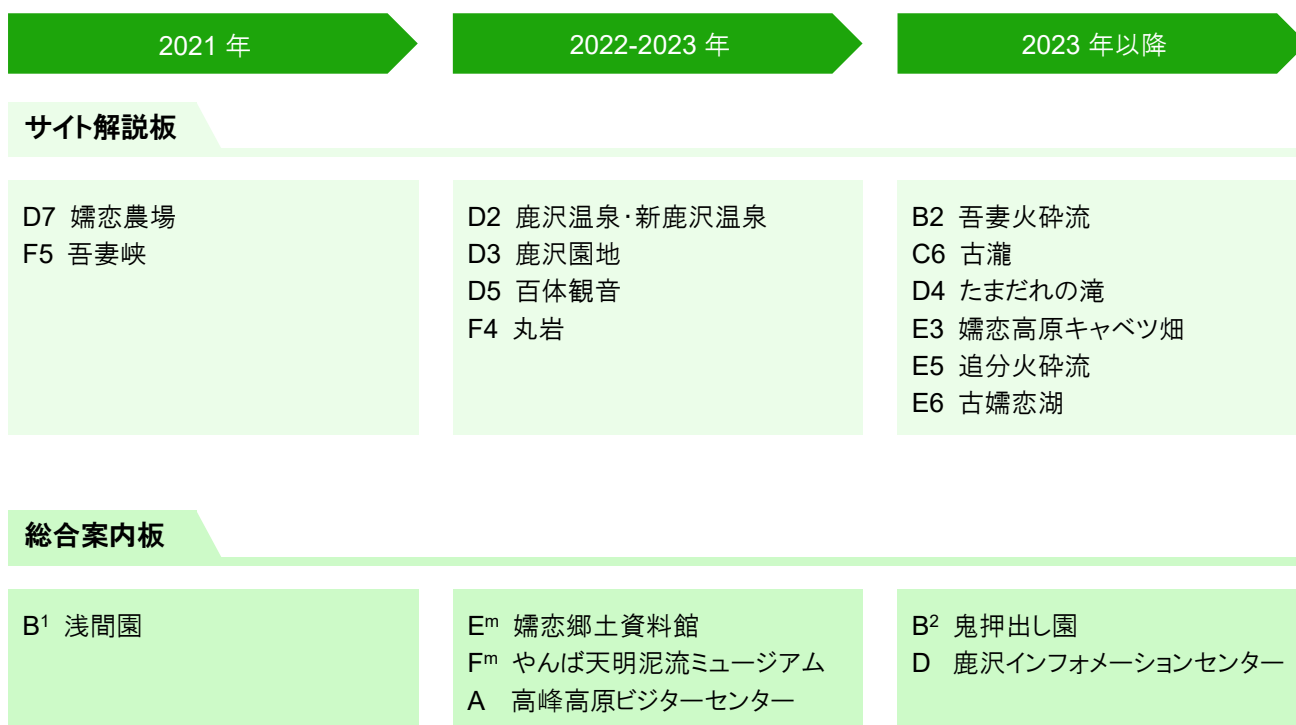
### サイトの更新

- サイトリストを新しい基準(地質・地形(ジオ)、生態系(エコ)、文化(カルチャー)、ビューポイント)にもとづいて再整理します。(済)
- 地質遺産の価値が知られないまま、その劣化を招くことがないよう、地質に関する研究や情報収集を進め、その整理・分析・評価を行い、ジオパークの新たな価値の掘り起こしに努めます。
- サイトのモニタリングを継続的に実施し、計画的なサイト整備に役立てます。
- エリア拡大に向けて、サイトリストを更新します。

### 案内解説板の設置

案内解説板は基本デザインに沿って作成し、解説文は英語を併記します。また QR コードを付し、スマートフォン等を介してウェブサイトと連動した情報提供を行います。

#### 案内解説板設置スケジュール



## 調査・研究

- ジオパークエリア内の人文・歴史・自然科学を対象とした研究の助成を行います。
- 学術振興を図りながら大学などと研究で協力し合える関係を築き、得られた成果を地域に還元します。
- 浅間山及び北麓地域に関わる地質・地形、生態系・動植物、歴史・文化、産業等に関わる学術的調査に関する文献・論文等の収集、蓄積、保管を行うとともに、その情報をガイドに還元していきます。

## 保全のための資料と計画の見直し

- サイトリストの整理に伴い、これまで作成してきた資料等の統合、改訂を行います。
- 保全管理計画を見直し、その目的と方法を明確化します。

## 浅間石の岩塊の保全

当地には、鎌原土石なだれとともに運ばれてきた浅間石の岩塊が点在しており、なかには長径 40m に達するものもみられます。これらの岩塊は未解明な部分が多い鎌原土石なだれの発生メカニズムに深く関わっているもので、当地の景観を構成する重要な要素にもなっています。

これらの岩塊は、開発のために採掘されており、このままでは地質遺産の価値や景観の劣化が懸念されることから、これらの浅間石の岩塊については、保全の範囲を検討し、分布調査を行います。

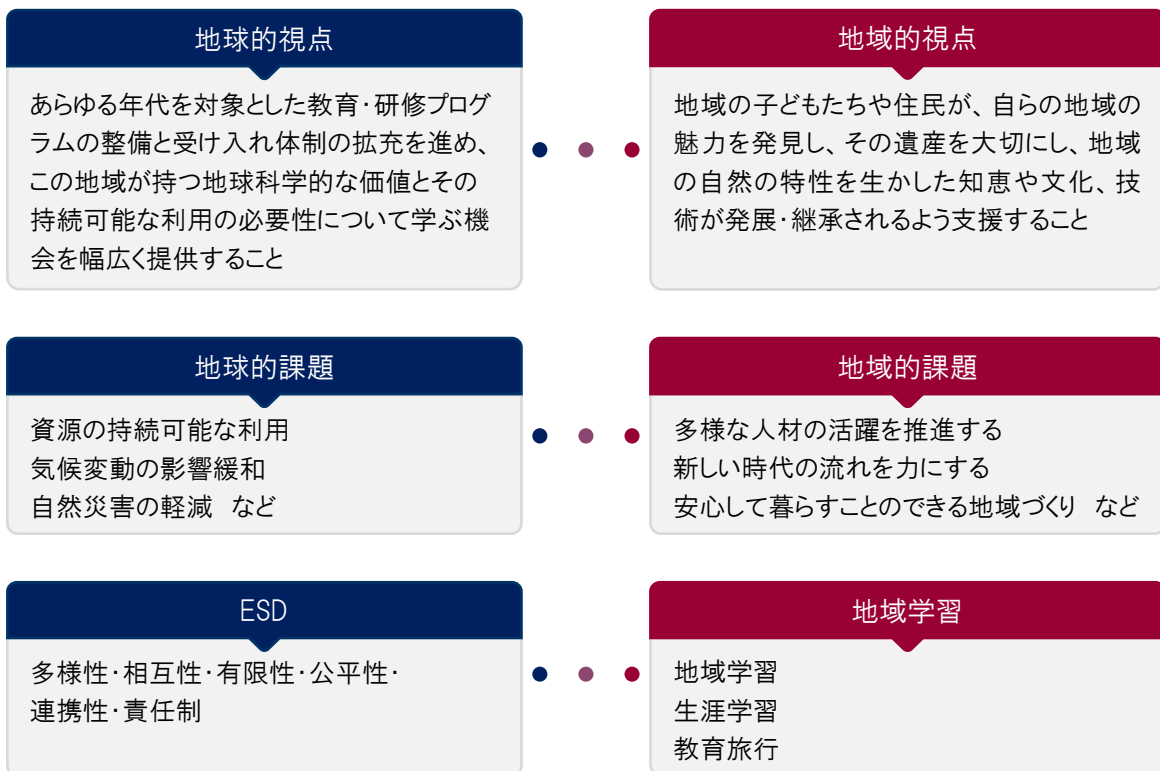
また、これらの岩塊を有する土地の地権者と、持続可能な利用のための合意を形成し、これらの遺産を尊重することの重要性を内外に向けて発信していきます。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
 O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
地質遺産の保全	サイト整備 済：指摘 1-3：サイトリスト区分整理		S-2：案内・解説板設置	S-3：サイトの削除・追加、更新	O：モニタリング、清掃活動、安全点検	
	調査・研究	学術機関	L：大学連携	O：研究助成制度	L：文献収集	
	指摘 3-8：浅間岩塊保全調査	教育委員会 学術機関	S-3：踏査・情報収集			S-1：現況報告書
		地権者	L：保全のための合意形成			
	保安全管理計画の明確化		S-2：計画の見直し			

地球環境をまもり、限りある地球資源を未来に残していくために、私たちはこれまでの意識と行動を変えていく必要があります。

ジオパークにおける教育活動は、この行動変容への理解と共感を促すものであり、あらゆる教育の機会を通じて、**地域資源の持続可能な利用のためには、地球環境への理解が必要になる**ことを、視覚的、体験的に伝えていくことが大切です。



## ユネスコ活動や SDGs の文脈からジオパークの理念を理解する

浅間山北麓ジオパークは、世界の課題を地域の身近な事例から学ぶことができる場所であることを示すキャッチフレーズを、パンフレットや広報誌などに表示し、ユネスコ活動・SDGs と地域との関わりを示しながら、ジオパークの理念普及のためのプログラムを充実させます。

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs × ASAMA

## 教育旅行に対応したプログラムと人材育成

首都圏の小中高等学校の自然体験学習を中心とした教育旅行の需要に応えるため、**自然を体験的・多面的に理解するためのプログラム**を用意し、受け入れ体制の整備を進めます。

どこでどのような自然体験プログラムができるのか、学校側に示せるメニューを用意し、教育旅行に対応できるガイドとコーディネーターを養成するために、継続的な情報交換と研修の機会を設けます。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
 O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025	
教育普及	地域学校支援	エリア内小中高等学校	O：野外学習・出前講座などの地域学習支援				
			O：教育懇談会(年2回)				
	一般・地域住民への教育普及	拠点施設 ぐんま自然史博物館	O：ジオカフェ、フォーラム				
			O：自然史博物館ポスター出展(年1回)				
	ジュニアインターンシップ	高校生	S-2：受け入れ体制、参加対象者の範囲、告知方法等を整理				
	子ども向け教育イベントの開催	ジオパーク関連施設	O：ジオキッズクラブ				
			地震火山地質こどもサマースクール				
	指摘 1-2：ジオパークの理念と地域を関連づけて学ぶレクチャープログラム		S-1：レクチャー スライド作成				
指摘 3-7：教育旅行に対応したプログラム(ESDの推進)	ジオパーク関連施設 観光協会 宿泊・研修施設	S-2：教育旅行の利用実態とニーズを把握					
		S-3：フィールドに応じた複数の教材とプログラムを構築、ガイドへの資料提供					
自然体験学習やESDをコーディネートできる人材を育成		L：継続的な情報交換と研修の機会					





日本は外国に比べて台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などの自然災害が発生しやすい国土です。

私たちは、災害から命と暮らしを守るために、気候変動の影響や、将来必ず起きる大規模災害がもたらす被害を軽減する方法を考え、行動する必要があります。

国内有数の活火山である浅間山の火山活動の影響を受け、過去から大きな変動を繰り返してきた大地の上にある当ジオパークは、過去の教訓から学び、最新の知見を知り、繰り返される自然災害とどう向き合っていくのかを考え、行動する場です。

私たちは、

1. 関係機関と連携して地質災害を軽減するために必要な情報を提供すること
2. 過去の災害伝承を生かしながら、自然の成り立ちの理解にもとづく行動と、安全確保への意識を高めること

を防災・減災啓発活動の柱として取り組み、柔軟な復旧力のある地域社会の形成に貢献していきます。

### 防災・減災啓発の視点

- **自然災害は地形と密接なつながりがある**

自然災害は地形の変動を伴う。地形から過去の災害を知ることができる。

- **火山地形が持つ多面性**

エコシステム・・・火山地形はその内側に多くの空隙を持ち、水源をかん養し、洪水調節の機能を持つ。

観光資源・・・火山地形は変化に富んだ美しい景観をつくりだす。

災害の要因・・・火山地形は水による浸食の影響を受けやすく、崩れやすい。

- **迅速避難と柔軟な復旧力**

大規模災害への対応においては、迅速避難と柔軟な復旧のために、私たちの意識と行動を変えていくソフト面での工夫が重要になる。

## 災害伝承をいかす（過去の教訓を学ぶ）

当地には、「鎌原観音堂奉仕会」や「天明三年を語り継ぐ会」など、住民が主体となって天明噴火の災害状況やその教訓を今日まで語り継いできた貴重な文化が根づいています。地域住民や来訪者が、これらの災害伝承に触れて過去の教訓を学べるよう、解説資料やガイド活動の充実に努めるとともに、当地に多数存在する、天明噴火の災害を伝承する碑については、国土地理院が地理院地図に掲載している自然災害伝承碑への登録を進め、過去の災害教訓の周知を図っていきます。

## 浅間山火山防災協議会との連携（最新の知見を伝える）

浅間山火山防災協議会と連携して、火山防災に関する最新の知見を共有し、それを一般に向けてわかりやすく伝えるために、「災害に備える」「避難する」「避難後の生活」の各場面において役立つ情報、参考となる事例をまとめ、火山災害のロールプレイング訓練に役立つコンテンツを企画・提供します。

拠点施設等においては、ハザードマップを掲示し、気象庁が発表する現在の浅間山の噴火警戒レベル、ライブカメラ映像など、火山防災に関する情報提供の充実に図ります。

## 発災時の行動計画

発災時に、自治体、火山防災協議会、社会福祉協議会等と協調して、正確・迅速な情報の収集と発信、避難誘導、復旧ボランティア支援、災害原因の調査等が行えるよう、参考となる事例の分析を進め、災害時の行動計画を策定します。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
 O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
防災・減災啓発	指摘 3-7：火山防災協議会と連携し、その成果を防災・減災啓発に反映	火山防災協議会	S-3：災害ロールプレイングコンテンツ製作			
	火山防災に関する情報提供の充実	拠点施設等	S-3：整備			
	自然災害伝承碑調査	学術機関 JGN 自然災害伝承碑登録推進WG	S-1：国土地理院に登録申請			
	発災時の行動計画	火山防災協議会	S-2：参考事例の分析		S-3：計画策定	



以下の3つの視点からツーリズムの質を評価し、必要な環境整備を進めます。

### 学術的知見にもとづく地域の価値

- 学術的価値をわかりやすく解説したサイトの基礎資料を整理
- 最新の知見をフィードバックする

### その土地ならではの物語

- テーマ別、サブエリア別のストーリー
- わかりやすいたとえ

### 教育効果を合わせ持つ

- 自然や文化を多面的に理解する
- 人間活動と自然との関わりがわかる

## 経済効果と交流効果を創出し、持続可能な地域社会の形成に貢献する

おもてなしの心をもって来訪者の満足度を高め、民間事業者とのパートナーシップを通して地域への経済効果を創出するとともに、地域住民と来訪者との交流から心うらやむ文化を育み、持続可能で活力ある地域社会の形成に貢献します。

## 安定的なガイド制度の運用

### ● 事務処理の効率化

オンラインでの情報管理やスケジュール調整アプリなどの活用を進め、事務処理を効率化します。

### ● 公式ガイドブックの刊行

ガイドテキストの図表補充・レイアウト構成などの監修を進め、公式ガイドブックを刊行します。

### ● 登山を伴うガイドの安全確保

将来の浅間山北面登山道の開通やエリア拡大を見据え、登山を伴うガイドの安全確保策を検討します。

## 地域周遊を促す

見どころの魅力や価値を自ら調べて発見するセルフガイドシートを作成し、エリアの周遊を促す仕組みとして活用します。また、発地と着地が異なる縦走型ツアーのアクセス手段として、事業者と連携したリレー送迎の可能性などを検討します。

## 浅間山北面登山道の整備推進と安全利用の啓発

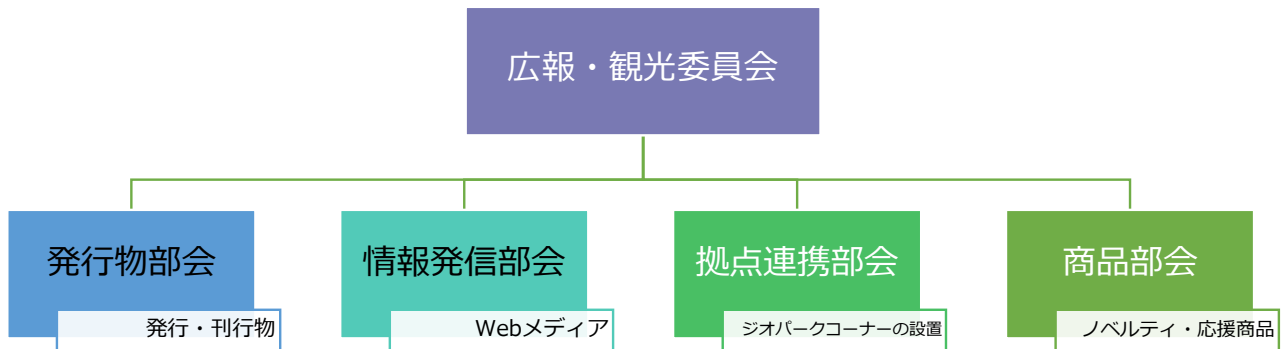
浅間山北面登山道の整備に向けて、火山防災と安全登山のための利用ルールとインフラ整備を計画します。  
また、山岳登山の利用者に向けた安全啓発のあり方を検討します。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
O：経常的活動 / 指摘 x-x)：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
自然享受とツーリズム	ツアー	ガイドの会 観光協会 宿泊施設	O：企画型、宿泊連携型ツアー			
	ガイド	ガイドの会	O：養成講座、交流会、研修会			
	公式ガイドブックの刊行	ガイドの会 グラフィックデザイナー	S-2：基礎資料を編集・図表補充		S-2：監修・レイアウト・刊行 ※刊行はエリア拡大の状況を見て判断	
	指摘 2-5)：セルフガイドによる周遊に役立つツール		S-2：セルフガイドシートを作成し、拠点施設等に配布			
	浅間山北面登山道整備	環境省	S-1：安全確保計画	L：整備推進		
	登山を伴う活動の安全確保	群馬県山岳連盟	S-2：登山を伴う活動の安全確保のための指針策定		S-2：安全登山啓発	
	パートナーシップ	(株)プリンスホテル、浅間酒造、JR、旅行代理店 など	L：スポンサード、タイアップイベント			

### 情報発信のための体制を強化

広報・観光委員会内に部会を組織し、情報発信のための体制を強化します。



### 情報の視覚化とアクセシビリティ（利用のしやすさ）の改善

- アイコンとピクトグラムによる視覚的な情報提供
- 視認性に配慮した文字の大きさ、色覚コントラスト
- 表記の標準化・一般化
- 多言語対応
- 音声読み上げ

### 専門家と連携してメディアの品質を向上させる

スマートフォンアプリやドローン、Web ミーティングシステムを利用した動画配信など、多様化・複雑化する情報メディアを効果的に活用していくために、素材の作成や企画構成など、外部の専門家と連携したメディアディレクションを構築し、メディアの品質を向上させます。

### 拠点施設等の活用と連携

拠点施設等の担当者会議を開いてジオストーリーを共有し、各施設の展示案内に反映させます。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題

O：経常的活動 / 指摘 x-x)：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025	
イメージと情報発信	定期発行物		O：季刊広報紙「あさまびと」				
			O：月間活動報告書「協議会だより」				
	視覚的な情報提供のための素材と手段を充実させる	グラフィックデザイナー メディアプロダクション	S-1：ロゴマークの見直し	S-3：キャラクター、視覚素材のデザイン			
			S-3：動画、オンライン配信による情報提供(2本以上)				
	指摘 2-5：拠点施設等の活用と連携を推進	ジオパーク関連施設		S-1：ジオストーリーの共有	S-2：ジオストーリーの反映		
				O：施設担当者会議			
		総合インフォメーションセンター		S-1：体験コーナーを設置			
		浅間山北麓ビジターセンター		S-2：フィールドワーク支援素材を作成			
		やんば天明泥流ミュージアム		S-3：展示内容をガイドが理解し、ツアーで案内できるようにする			
	ノベルティアイテムの企画・製作		O：企画・製作				
ウェブサイトのアクセシビリティを改善する	グラフィックデザイナー メディアプロダクション	S-2：テンプレート・レイアウトの見直し	S-2：多言語化				
		S-3：特集テーマコンテンツの配信					

### ネットワーク活動に貢献

日本ジオパークネットワークの一員として、大会・研修会・ワーキンググループなどに積極的に参加していくとともに、当ジオパークの特色ある活動を発信し、ジオパークのブランドの質の向上に貢献します。

### 地域コミュニティとの交流

地域コミュニティと人的交流・学際的連携を図りながら、地域の課題をともに考え続けていく関係を築いていきます。

### 浅間山南麓地域との共同事業を推進

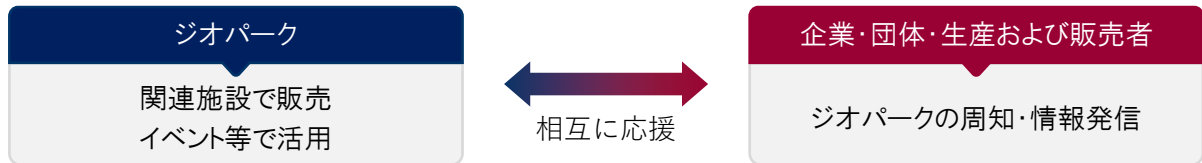
当ジオパークは「浅間山全体の持続可能な利用の推進」をビジョンに掲げて活動しています。このビジョンの実現に向けて、保全活動、ツーリズム、地域コミュニティなどにあらわれているジオパークの効果を浅間山南麓地域に知ってもらうため、連携ツアーやガイド交流などの共同事業を推進します。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
 O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
コミュニティとネットワーク	指摘 1-1：ジオパークのネットワークを通して、ジオパークの最新動向や参考となる事例の共有を図る		JGN 関東大会 ホスト開催	S-3:JGN グループワーク		
			S-2：話題提供、事例の発信・共有の重点化			
	学術交流	日本地球惑星科学連合		L:JPGU パブリックセッション参加・協力		
	地域コミュニティとの連携・交流	嬭恋村高山蝶を守る会、文化協会 など	L:人的交流、学際的連携、地域の課題を共有			
	浅間山南麓地域との共同事業を推進する	長野県軽井沢町、御代田町、小諸市、東御市	L:連携ツアー、ガイド交流			

### 相互応援商品の選定

地域に根付いたストーリー性のある商品をジオパークの相互応援商品に選定し、企業・団体・生産および販売者とジオパークの価値を共有しながら商品の付加価値を高めます。



### マーケティングにもとづく企画開発力を高める

- ニーズを把握する力
- 必要とされている商品とサービスを開発する力
- 情報を興味のある人に届ける力

### 郷土食「くろこ」の活用

じゃがいもからでんぷんを採った後の残渣を発酵させて作る郷土の伝統的保存食「くろこ」の発酵特性や食品としての機能性などについて、大学と共同研究を行い、その活用と製造技術の伝承を進めます。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題

O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
くらしと産業	相互応援商品		L:相互応援商品の認定、タイアップキャンペーン			
	マーケティングにもとづく企画開発力を高める		L:物産品アンケート調査、ターゲット層へのプロモーション			
	郷土食「くろこ」を活用する	高崎健康福祉大学	S-2:大学と共同研究		S-2:活用企画	



## 学術的品質と専門性の確保

ジオパークには、その活動を学術面から継続的に支援する専門家の存在が不可欠です。ジオパークにおける学術専門家の役割は、

- ジオ資源の学術的価値を明らかにする調査研究
- ジオ資源に関する学術的情報の執筆・監修
- 多言語に対応した解説
- 環境教育のコーディネート
- 普及講演会やガイド養成講座の講師
- 国内外の学会への参加と研究報告
- ジオパークネットワークの一員としての学術交流
- 活動の評価・助言・計画づくり

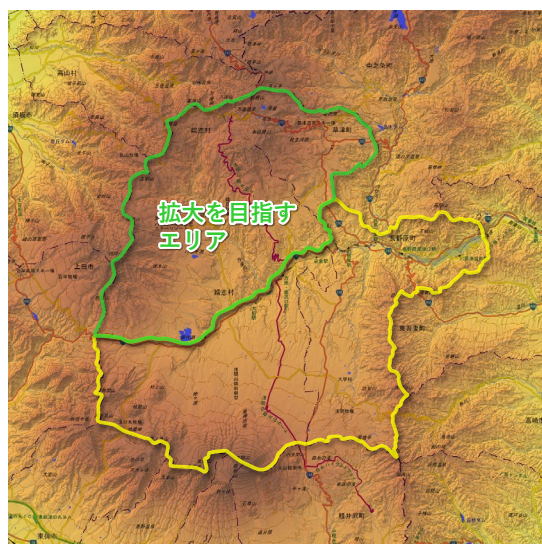
など多岐にわたります。

ジオパークは、地球科学を基礎として、生態系や歴史・文化など多分野に及ぶ学術領域を扱うことから、地域の学芸員や教員 OB などとも学際的・分野横断的に協力しながら、ジオパークの学術的な品質を確保していきます。専門的人材の雇用については、その継続性に配慮することとします。

## エリアを実際の活動範囲に合わせて拡大する

活動の進展に伴い、エリア外にガイド活動が波及していることから、孺恋村吾妻川左岸地域へのエリア拡大を目指します。

拡大エリアは、生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)と一部重複することから、ジオパークとエコパークの相乗効果により、どのような価値が付加されるのかを検証します。



## 社会に対する説明責任を果たす

予算、決算、意思決定のプロセス、保全計画などの情報公開を進め、開かれた組織として、社会に対する説明責任を果たします。

S-1：おおむね1年以内に解決 / S-2：おおむね2年以内に解決 / S-3：中期的に解決 / L：長期継続課題  
 O：経常的活動 / 指摘 x-x：2020年再認定審査の指摘事項に関連する取り組み

領域	項目	関連・連携	2021-2022	2023	2024	2025
管理運営	学術的な品質と専門性の確保		L：指摘 3-6：地球科学専門員の雇用			
		教育委員会 郷土資料館 天明泥流ミュージアム	L：学芸員と学際的に協力			
		運営委員	L：学術・技術専門スタッフとして協力			
	エリアを実際の活動範囲に合わせて拡大する		S-1：基礎調査	S-3：保全活用計画、エコパークとの相乗効果を検証		
					L：インフラ整備	
						S-1：申請
	社会に対する説明責任を果たす		S-1：情報公開レベル1(基礎的事項)	S-1：情報公開レベル2(重要事項)		

## 事務局体制

### 事務局人員

#### 《現行》

事務局長 1名  
事務局次長 1名  
事務局員 4名  
専門員 1名

#### 《計画》

- 事務局は7名体制を維持する。
- 地球科学の専門員雇用を目指す。

### エフォート(時間配分)50%以上の学術・技術スタッフ

#### 《現行》

地質 1名

#### 《計画》

地質 1名  
教育 1名  
ガイドコーディネーター 1名

## 予算計画

予算は現状規模を安定的に維持するとともに、事業収入を伸ばして予算確保の自律性を高めます。

	2021	2022	2023	2024	2025
負担金	15,500	15,000	13,000	13,000	13,000
ガイド料	2,300	2,500	2,500	2,700	2,700
物品販売	1,200	1,300	1,300	1,500	1,500
合計	19,000	18,800	16,800	17,200	17,200

(単位:千円)



## 浅間山ジオパーク推進協議会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原 494-45

Eメール: [asama-geo@ebony.plala.or.jp](mailto:asama-geo@ebony.plala.or.jp)

TEL: 0279-82-5566